

ひかり 議会だより



発行編集：日之影町議会報編集委員会

追川「山中の里」の風となれ！
（岡田原史さん）

平成29年度一般会計補正予算 P4
一般質問 □ P6~P7
東京要望調査報告書 □□□ P8

新年のご挨拶



議長 長道 生
杉 本

新年明けましておめでと
うございます。

例年になく寒い冬ですけれども、町民の皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えのことと存じます。昨年を振り返りますと台風

人災等には至らず、まずは平穏な一年であったかと思
います。

平成29年日之影町議会は2地区6団体の方々と意見交
換会を実施しました。皆様のご協力に感謝申し上げます。
今後も反省及び研さんを重ね、皆様と諸々の課題の共有、
対応策の共通理解が出来るように継続していきたいと考
えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

また、昨年10月には全議員により、関係省庁と国会議
員に対し、調査及び要望活動を行いました。本町のような
条件不利地の現状、諸課題を踏まえ、中山間直接支払
い事業等主要5項目にわたり、生の声を国に訴えました。
今後は、何らかの形で国の施策に反映されるものと確信
をしております。

さて、あの「地方消滅論」が大きな衝撃を与えて3年
が経過しました。当初は全国津々浦々「地方創生」の大

合唱でありましたが、その後、若い女性世代の人口が増
加し人口の社会増を実現した自治体を見ると、意外にも
合併をせず自主自立を選じた離島や山間部などの小さ
な町村が大健闘をしている、というデータもあります。
「田園回帰」にみられる若者の価値感変化の風に乗るな
ら、今後移住定住に向けてより効果的かつ特徴ある施策
が必須と考えます。

本町も、庁舎建設をはじめ大きな課題が山積でありま
すが、町民としての高い誇りと連帯感をもち、より輝く
町を後の世代に繋げなければなりません。行政と一体と
なり、町民が心を一つにできるかが、大きなポイントだ
と思います。議会も本来の使命を自覚しつつ、町民の皆
様の負託に応えられるよう切磋琢磨しながら努力する覚
悟でありますので、皆様の御指導御鞭撻を賜りますよう
よろしくお願いいたします。

結びに、本町の益々の発展と、町民の皆様の御健勝を
お祈り致しまして、新年のごあいさつといたします。



12月定例議会

第4回定例会は、12月5日に開会し、報告4件、議長発議2軒、専決処分事項1件、条例制定3件、条例の一部改正5件、議会の議決を要する協議3件、町道路線の認定1件、平成29年度補正予算6件を原案のとおり承認・可決した。一般質問は、4名が登壇し町長に質問、12月15日に閉会した。

条例制定

■条例制定

●特別職から一般職へ任用替えを行うため、地方自治法の規定に基づき、地域おこし協力隊と集落支援員の、勤務時間、条件、報酬等を、条例で定めるもの。

●八戸地区の合併浄化槽に係る排水の排水路を設置するにあたって、その設置及び管理に関する事項について制定するもの。



《八戸地区全景をのぞむ》

■条例の一部を改正する条例

●国家公務員の特別職に準じて、町長、副町長、教育長

に係る期末手当の支給月数を、0.05ヶ月引き上げるもの。

●国家公務員の特別職に準じて、議員に係る期末手当の支給月数を、0.05ヶ月引き上げるもの。

●国家公務員に準じて措置するもので、町職員の給与を400円の引き上げを基本に改定するとともに、期末勤勉手当の支給月数を0.10ヶ月引き上げるもの。

●地方公務員育児休業法により、一般職非常勤職員については、一定の要件を満たす場合には、育児休業の所得が可能になるもの。

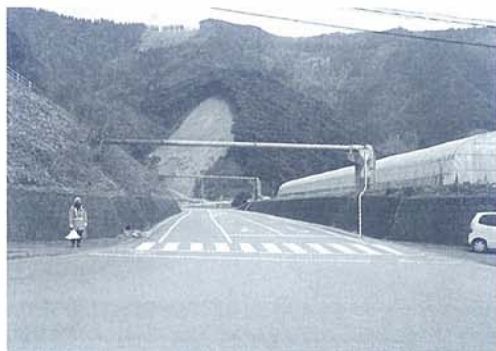
■議会の議決を要する協議

●宮崎県自治会館管理組合と宮崎県市町村総合事務組合について、その事務の合理化、効率化を図るため、宮崎県自治管理組合を平成30年3月31日に解散し、その事務と財産を宮崎県市町村総合事務組合に継承し、規約を変更する必要があるため。

■日之影町道路線の認定について

西深角岩戸線
延長2,508m

●本路線は、西臼杵広域農道2期地区として整備された深角と岩戸を結ぶ農道で、平成30年度に国道218号高千穂日之影道路の、末市から深角間が一部供用開始となり、深角インターチェンジに接続する当路線を道路法上の道路にする必要があるため。



《起点となる西深角岩戸線》

専決処分事項の承認

(専決第11号)

歳入・歳出補正額

1850万円

補正後の総額

47億2047万円

■歳出の主なもの

●衆議院選挙に伴う経費

717万円 追加

●台風18号に伴う災害復旧費
(応急処置分)

1056万円 追加

村と村で農地を守ろう!

歳出の主なもの

- 総務費 (ケーブルネットワーク施設修繕等)
1238万円 追加
 - 民生費 (障害者自立支援事業扶助費等)
2289万円 追加
 - 農林水産業費 (中山間地域等直接支払い交付事業交付金等)
JAのくり選別機システム改修負担金
3815万円 追加
 - 消防費 (Jアラート新型受信機導入事業委託料等)
491万円 追加
 - 災害復旧費 (農地災害復旧費等)
1億7300万円 追加
- ◆ 補正額 **2億7370万円**
- ◆ 補正後の総額 **49億9417万円**

目的

- 1、担い手の育成と活動範囲のより広域化を促す。
- 2、単位集落を超えた全協定集落による農地の維持管理。

来年度より、国・県の助成を最大限活用して、全国に先駆けた新しい農作業受委託システムを構築し、作業委託者・受託者双方にメリットのある取り組みとしてスタートします。

中山間地域等直接支払制度「集落連携・機能維持加算」の取り組みとは?



《稲刈りの風景》



《農地災害》

【災害復旧事業】

(単位：万円)

所属課	事業名	事業の内容	補正額
農林振興課	林業施設災害復旧事業	現年発生林道災害復旧事業(12ヶ所)	4240
建設課	農業施設災害復旧事業	現年発生農業施設災害復旧事業(5ヶ所)	796
	農地災害復旧事業	現年発生農地災害復旧事業(52ヶ所)	8765
	土木災害復旧事業	現年発生土木災害復旧事業(12ヶ所)	3350

所管事務調査報告書

しっかりと清掃しましょう

「ヤマダカレハ」つてなに？

◆総務文教常任委員会

①合併浄化槽の管理及び現状と課題について

合併浄化槽の設置については、河川の水質汚濁防止や環境の観点から、年々増加の傾向にある。その清掃率は、本町が91%と西臼杵管内で最も高い。しかし、法定検査率は低く、設置者への周知に啓発が必要であり、公平性を図ることが重要である。さらなる高千穂保健所の強い指導力が求められます。



《高千穂保健所にて》

②地域医療構想の取り組みと展望について

地域医療構想とは、地域ごとに必要な医療機能を考え、地域医療のあるべき姿を示す取り組みで、県が策定するものです。慢性化している医師不足や人口減少等による患者不足と、中山間地の不採算病院の経営が最大の課題です。私たちが病気になる時、病院が地域ごとにどの程度用意されるかが決まるので、無関心にはいられません。県の適時適切な対応を期待します。



《日之影町立病院》

◆経済建設常任委員会

①鹿川集落(黒仁田作業道)の整備状況について

地元との意見交換会での要望もあり、現地調査を実施した。台風後の調査となり、大木が倒れ、道路も雨で浸食しており想像以上のものだった。シラス土壌であるため、舗装等の施工を検討する余地がある。作業道の先には、県有地もあることから、県を含めた協議を行い、早めの整備が必要と思われる。



《黒仁田作業道》



《クヌギに付着したヤマダカレハの幼虫》

②大山集落入り口のクヌギ林の「ヤマダカレハ」の現状

「ヤマダカレハ」は、チヨウ目カレイガ科に属するガの一種で、幼虫と繭には毒針毛があり触れるとかぶれる恐れがある。主に、クヌギやコナラなどに産卵し、幼虫の食害により、樹木の成長を妨げる。既に、大山、星山、河内地区で発生しており、椎茸生産者への影響が懸念される。現時点での対策は、人海戦術で駆除するしかない事から、今後の対策を急ぐ必要がある。

一般質問とは、議員が行政全般にわたって執行機関に対し、施策の状況や方針などについて説明や報告を求めるものです。

「セندان」の植栽は

町長 検討してみる



飯 干 静 香
議 員

《森林・林業・産業活性化について》
問 セندانの木の植栽に
 取り組む考えはないか伺
 う。

町長 県林業技術センターの調
 査研究内容、需要動向等を
 みながら判断していきたい。

《「ヤマダカレハ」の大量発生対策は》
問 大川平地区に発生して
 いるが食い止め策の取り
 組みを伺う。

町長 登録農薬がなく、捕殺す
 る方法しかない。広報・農
 林だよりで周知し、機会あるごと
 に生産者への注意喚起に努めてい
 く。

《農林産物の意欲ある生産者に
 対しての表彰策は》

問 過去の産業文化祭で農
 産物等の展示・表彰をし

ていたが、今後何らかの機会
 をつくる考えはないか伺う。

町長 各生産部会と協議し、そ
 の結果を踏まえて検討して
 いく。

問 過去の開催時期が10月
 下旬では農産物の品目が
 少なく出店確保が難しいこと
 から販売に移行となったよう
 だが、渓谷まつりの時期を11
 月頃にしてはどうか伺う。

町長 今のところ11月は行事が
 目白押しであることから検
 討中。



《咲きほこるトルコキキョウ》

二期目の取り組みは

町長 女性の働く場所を創出



河 野 學
議 員



《立て替えを待つ、日之影町庁舎》

の創出に努める。また、ケアマネ
 ージャーや保育士などの資格取得
 や就労支援を行い、女性の職場進
 出を後押ししたいと考えている。

問 人口減少対策について
 具体的に伺う

町長 人口減少対策には、移住
 ・定住の取り組みが大変重
 要であります。今後は、住宅や宅
 地の確保が必要であり、民間住宅
 建設のさらなる斡旋と宅地分譲地
 の研究を行いたいと考えておりま
 す。

問 どう町を発展させるか、
 優先施策を具体的に伺う

町長 農業法人「ひのかげアグ
 リファーム」をさらに充実
 発展させると共に、基幹産業であ
 る農林業の振興を図っていきたく
 ・新たな雇用や、若い女性の働く
 場所の創出に取り組みたい。
 ・老朽化した役場庁舎の建て替え
 と、道の駅「青雲橋」のリニュー
 ーアルなどに取り組んでいきたく
 い。

問 女性の働く場所につい
 て、具体的に伺う

町長 森林セラピーや、平成27
 年度に認定された世界農業
 遺産、本年度登録されたユネスコ
 エコパークなどの世界的ブランド
 を活かした、観光産業の推進によ
 り、案内や施設運営に携わる仕事

昨年度決算を次年度へどう生かす

町長 何をすべきか各課で審議



甲斐 睦彦 議員

《新年度事業・予算の基礎を伺う》

問 長期計画に於ける一年毎の実施計画は「PDCA」サイクルを基本とした見直しが必要と考える。昨年度の決算をどう生かすか伺う。

町長 限られた財源の中で重点的かつ効率的に事業を推進するため、社会情勢の変化や町民のニーズを的確に把握し「何をすべきか」優先順位と創意工夫を凝らした施策立案を行うものとする。

《職員提案事業の実効性》

問 平成30年度の予算職員提案型事業並びに「まち・人・しごと・くらし」の四つの部会から事業を融合させ実行し発信するべきではないか伺う。

町長 行政効率と住民サービスの向上を目的に提案を受け付け

ている、提案で終わることなく実現に向けて各課で具体的な検討に入るよう指示した。

《ふる里納税活用拡大策を伺う》

問 平成30年度から「自治体と納税者の交流を財政面で支援」が施行される、納税者に活用策を「見える化」し、交流と拡大が期待される。

町長 ふる里納税をきっかけとした「ふるさと移住交流促進プロジェクト」を来年度から取り組めないか検討していきたい。

《滞在型観光の考えを伺う》

問 本町には圧倒的に宿泊場の不足している。無いものを求めるより既存の農家民泊を活用し支援すべきではないか。

町長 現在の観光客は多様化しており体験や交流を望まれている。民泊などが重要だと感じる事から推進する。

二期目に向けての決意と施策は？

町長 町民との対話と協働の町政を実行する



一水 輝明 議員



《青雲朝市》

□減少や雇用の場の確保、担い手育成など課題も残されている。

問 二期目の決意と重点施策は。

町長 九州中央道等の道路網の整備、小学校での英語教育の推進、「ひのかけアグリファーム」の充実、基幹産業である農林業の振興等を、推進していく。また、世界農業遺産、ユネスコエコパーク、森林セラピー基地の取り組み強化を計して、商工観光の振興と雇用の創出を図っていく。

問 公共事業と企業誘致の取り組みは。

町長 公共事業は、大変重要な雇用の場となっており、必要な財源を確保し、国・県が創設する新規事業についても取り組んでいきたい。企業誘致は、空き家の活用を含めた誘致活動を延岡市と連携を密にして進めると共に、県の東京・大阪・福岡事務所と情報交換を行い、中央地区の活性化を合わせ取り組みたい。

問 一期目の自己評価と課題は。

町長 「町民の目線で町民と作る対話と協働の町政を」基本に、町政の推進に努めてきた。中でも、農業法人の設立、世界農業遺産の認定、ユネスコエコパークの登録等、一定の成果を挙げてきた。一方、人

届いたかふる里の熱い想い

◆議会全員による各省庁要望を参議院
会館会議室にて各省庁職員を招き二
日間にわたり要望活動を行った

【1】『中山間地域等直接支払制度の継続と農
業法人支援制度の拡充を望む』

〔意見書〕 現在第4期となった「中山間地域
等支払制度」は、もはやなくてはならない
命綱である。併せて、中山間地の現場では
農地を守ることで精一杯の現状も理解して
戴きたい。この制度の効果は国も認識して
おり、制度の継続と拡充を更に望む。

〔農水省〕 平成30年度予算要求は6億円増
の269億円とし、取り組み安くしたいと
考える。更には、国土の保全、水源涵養の
多目的機能を有する事から引き続き支援を
行う必要がある。

〔意見書〕 農業法人については、国も経営体
増の計画であるが推進体制への整備、経営
の質の向上等ソフト面での支援が主であり、
経営に対する直接支援もお願いしたい。

〔農水省〕 平成35年迄に5万法人を施策目標
とし、「農業経営相談所(仮称)」を中心に専
門家チームのマップを図りきめ細かく問題
と課題に取り組み経営力向上に努める。

【2】『森林・林業産業振興対策について』
〔意見書〕 「林業成長産業化総合対策」は今
日の素材生産業者への効果は大である。一
方担い手育成・資源循環型林業についての
対策を望む。

〔林野庁〕 本年度予算要求は対前年度比
1,000億円増の3,566億円であり主
伐・再造林の一貫作業、林業大学の創設
も急がれる。「森林環境税」については、市
町村が主体となる財源ではあるが、県との
関係も懸念されるので早急な税制上の措置
を求める。

【3】『有害鳥獣の被害対策の強化について』
〔意見書〕 いまだに被害が増加傾向にあり、
耕作意欲の低下を招き、国土保全の意味か
らでも喫緊の課題である。

〔林野庁〕 平成19年度から「鳥獣被害防止特
措法」を設立し、捕獲員の推進・担い手の
育成・捕獲鳥獣の利活用を推進してきた。
引き続きICT等の新技術を確保し「鳥獣
被害防止総合対策支援事業」にて支援を行
う。

【4】『過疎地域支援等の振興と継続、規制緩
和について』

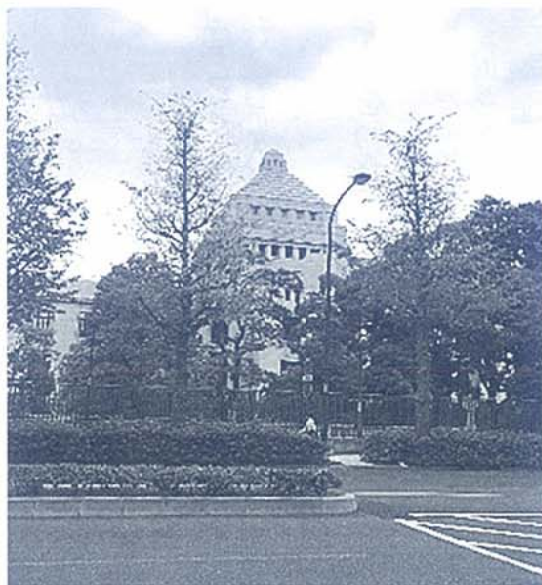
〔意見書〕 本町に於いての高齢化率は42・7
%であり、集落機能の低下や伝統文化の継
承難・地域が有する多面的機能の衰退が危
惧され、地方創生はまったなしと考える。

〔総務省〕 人口減少へ向けた予算配分を考慮
し、500億円の上乗せについては、雇用
を伴うものを優先する事から、地方の知恵
と行動力が必要と考える。

【5】『九州中央道の整備について』

〔意見書〕 九州中央道の整備率は、まだまだ
16%であり、命の道はもとより、ストック
効果は地域活性化には必要不可欠である。
早期完成のため、今年度「蘇陽〜高千穂」
間の委員会開催を求める。

〔国交省〕 九州中央道は、繋がってこそ道路
の効果が発揮される。九州の横の軸として
重要性を実感し、今回の要望を踏まえ、ス
ピード感を持って対応する。

平成29
年10月

関係省庁・国会議員要望・視察

時速250kmで回る風車！

西白杵郡議員大会開催される

11月6日西白杵郡町村議員大会及び研修会が、五ヶ瀬町商工会館で開催されました。

最初に郡議長会長の五ヶ瀬町議長と五ヶ瀬町長があいさつされ、次にジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社から、大仁田山風力発電所について工事の流れ

や、大規模林道から六峰街道を経由した深夜の資材運搬に苦労した事など説明があり、その後、飯干峠にある発電所の現地を視察しました。

風力発電所は、総事業費約80億円で建設されています。設置された8基の風力発電機の視察を行いました。間近に見ると、風車の高さが118mとの大きさに驚きました。大きなメンテナンス



《飯干峠に建設された風車》

又はないかとの質問には、雷の被害が1度ありましたが、熊本震災ではびくともしなかった、との説明でした。自然を活かした再生可能エネルギーの取り組みは、環境面からも重要であり、さらに6基増設の予定があるということで、今後も注視したい事業です。

米良会頭の迫力に圧倒！

宮崎商工会議所会頭と対談

11月14日、宮崎商工会議所内で、県商工会議所連合会会頭の米良充典氏と、対談を行いました。冒頭、会頭は議会との対談が初めてと話され、大歓迎を受けました。

米良会頭は、高千穂町にも出張所がある県内の電機業界最大手の「米良電機産業」の社長をされています。

また、バイオマス発電所や、水力発電所も経営され、最近では、東京五輪の主会場となる新国立競技場の電気配電盤を、一括受注されたとのこと。

対談は、電気事業から農林業まで多方面に及び、中でも大人の小水力発電に興味を示されました。また、林業は再造林が最重要課題で、県

内林業関係者が一つになって対策を講じる必要があると話されました。予定の時間を3分以上超えて熱意あるお話しを拝聴し、今後も本町行政にお力添えいただけるものと期待するところです。



《熱弁をふるう 米良会頭》

意見交換会

地域活性化にむけての
取り組みを

■鹿川・中川地区

期 日・平成29年9月28日

場 所・鹿川公民館

鹿川・中川集落の住民の方、14名の参加を頂きました。様々な要望事項に加え、議員活動に関する定数、報酬、なり手不足等についての提言や、企業誘致・庁舎建設・道の駅リニールの詳細等について感心が高く、婦人部からの意見も多く出ました。その他、中川道路、黒仁田作業道の整備、すまいるバスの宮交バスとの乗り継ぎの検討の要望もありました。貴重なご意見ありがとうございました。ございました。



議員の集落周りを
更に望む

■小川平地区

期 日・平成29年11月27日

場 所・小川の郷

師走前の時期となつたが、各集落から15名の参加を頂きました。今回は、アグリファームの運用、有害獣の対策、町内の介護施設の待機及び入居状況、病院の医師や接遇の件等の現況について、厳しい提言もありました。若者からは、保育所の待機、救急車の運用、用水路の維持管理、飲料水道整備の補助等、行政に対する要望が多かつたが、公民館独自の活動も聞けて参考になりました。貴重なご意見ありがとうございました。ございました。



■表紙紹介■

「岡田原史氏プロフィール」

平成28年4月「旬果工房てらす」を立ち上げ、仕入れ加工・販売までの業務を行いながら、日之影町農産物の付加価値向上とブランド化を目指し、今では「虎屋」「大淀河畔ミヤチク」などに商品をおろしています。今後の活躍に期待します。(千葉県出身・29歳)

編集後記

あけましておめでとうございます。議会広報誌も皆様に親しく読んでいただけるように、委員長を中心として試行錯誤を重ねておりますが、更に充実した紙面づくりに努めて参ります。平成31年5月で平成が幕を閉じる事が決定されました。新しい元号の名が気になる場所ですね。厳冬が予想されています。町民の皆様のご健勝、ご多幸を御祈念申し上げます。
(佐保満男)



発行責任者

議長 杉本道生

議会報編集委員

委員長 一水輝明

副委員長 甲斐睦彦

委員 佐保満男

委員 河野 學